

地域揺り起こしの軍師
(青森)

土岐彰寿



赤の仲間入り



2021年4月28日、青森県五所川原市在住の土岐彰寿氏（トキあつぷる社代表）が、赤〜いりんごを使用したシードルを商品化。「赤の仲間入り」という、鮮やかな赤のシードル450本の販売を開始した。

同氏が製造委託したのは弘前市にある「GARUTSU」（ガルツ）。原材料のりんごは、2020年産の「御所川原」、「栄紅」、「レッドキュー」の三種。それぞれを、1：1：3の割合にてブレンドした果汁とし、「赤の仲間入り」シードルは、ドライで辛口の仕上がりにしたと言う。

販売は、五所川原市のトキあつぷる社直売所、立佞武多（たちねぶた）の館、そしてネットショップにて行う。

元々、同氏はグローバル通信企業に従事しており、エンジニアとして国内外で活躍していたが、りんご農園である実家の実父の体調が優れず、実家に帰り、エンジニアからりんごファーマーとして転身、現在に至っている。

ときシードル



因みに、同氏の家系図を紐解けば、その先祖は初代沼田藩主につながる土岐明智氏であり、何と明智光秀との関わりがあることが判明。NHK大河ドラマ「麒麟がくる」全国放映のタイミングにて、黄色いシードル商品開発に着手、完成に至った。

使用したのは、黄色いりんご「トキ」。実は、同氏の親族である故・土岐傳四郎氏が、「ふじ」と「王林」を掛け合わせて開発したもの。

よって、土岐一族末裔の開発でもあり、黄色いりんごのシードルの商品名を「ときシードル」（2020年5月完成）と命名。また、ラベルには、光秀が詠んだ句とされる「ときは今 あめが下しる 五月かな」と、土岐氏家紋である桔梗紋があしらわれている。

今回販売開始したのは赤〜いシードル。同氏にとっても世界初の試み。常に時流を読み、適時適宜な判断を下す能力「智」を備える同氏は、明智光秀というキーワードにて、飛ぶ鳥を落とす勢いで突進しつつある。